

Wikiprint Book

Title: Trac と mod\_python

Subject: SilverFrost - TracModPython

Version: 3

Date: 12/20/25 13:27:46

## SilverFrost 目次

Trac と mod_python	3
シンプルなコンフィグレーション	3
認証設定	4
PythonPath を設定する	5
マルチプロジェクトのセットアップ	5
仮想ホストの設定	6
トラブルシューティング	6
Expat-related のセグメンテーションフォルト	6
フォームを送信するときの問題	6
仮想ホストの設定においての問題	7
.htaccess ファイルを使用する	7
Win32 での特記	7
OS X での特記	7
SELinux での特記	7
FreeBSD での特記	7
Subversion での特記	7
ページレイアウトの問題	8
HTTPS の問題	8
Fedora 7 の問題	8
php5-mhash または その他の php5 モジュールのセグメンテーションフォルト	8

## Trac と mod\_python

Trac では [mod\\_python](#) を利用可能です。 [mod\\_python](#) は Trac のレスポンスタイムを飛躍的に向上し、特に [CGI](#) と比べて、 [tracd/mod\\_proxy](#) では使用できない多くの Apache 機能を使えるようにします。

以下の説明は Apache2 のためのものです；まだ Apache1.3 を使用しているなら、 [TracModPython2.7](#) にいくつか情報があります。

### シンプルなコンフィグレーション

mod\_python をインストールしたら、Apache の設定ファイルに以下の一行を追加してモジュールをロードしなければなりません：

```
LoadModule python_module modules/mod_python.so
```

Note: モジュールがインストールされている正しいパスは HTTPD をどこにインストールしたかによって変わります。

Debian で apt-get を使用する場合

```
apt-get install libapache2-mod-python libapache2-mod-python-doc
```

(Debian の続き) mod\_python をインストールした後に、apache2 (上の Load Module に相当するもの) のモジュールを有効にしなければなりません：

```
a2enmod mod_python
```

Fedora で yum を使用する場合：

```
yum install mod_python
```

httpd.conf に以下を加えることで、mod\_python

がインストールされたかテストすることができます。セキュリティ上の理由から、テストが終わった時点で以下のコンフィグは削除するべきです。

Note: mod\_python.testhandler は mod\_python 3.2+ で利用可能です。

```
<Location /mpinfo>
  SetHandler mod_python
  PythonInterpreter main_interpreter
  PythonHandler mod_python.testhandler
</Location>
```

mod\_python を使用した簡単な Trac のセットアップ方法は以下のようになります：

```
<Location /projects/myproject>
  SetHandler mod_python
  PythonInterpreter main_interpreter
  PythonHandler trac.web.modpython_frontend
  PythonOption TracEnv /var/trac/myproject
  PythonOption TracUriRoot /projects/myproject
</Location>
```

**TracUriRoot** オプションは不要な場合もあります。 **TracUriRoot** オプションを付けずに試し、Trac が正しく URL を生成できないか、 "No handler matched request to..." というエラーが出るようであれば **TracUriRoot** を追加して下さい。 **Location** と **TracUriRoot** が同じパスになるようにしてください。

PythonOption の一覧は以下の通りです。

```
# For a single project
PythonOption TracEnv /var/trac/myproject
# For multiple projects
PythonOption TracEnvParentDir /var/trac/myprojects
# For the index of multiple projects
```

```

PythonOption TracEnvIndexTemplate /srv/www/htdocs/trac/project_list_tepmlate.html
# A space delimited list, with a "," between key and value pairs.
PythonOption TracTemplateVars key1,val1 key2,val2
# Useful to get the date in the wanted order
PythonOption TracLocale en_GB.UTF8
# See description above
PythonOption TracUriRoot /projects/myproject
# Override default python egg cache location
PythonOption PYTHON_EGG_CACHE /var/trac/myprojects/egg-cache

```

## 認証設定

パスワードファイルを作成して、認証を構成するには [CGI](#) と同じように行います。

```

<Location /projects/myproject/login>
AuthType Basic
AuthName "myproject"
AuthUserFile /var/trac/myproject/.htpasswd
Require valid-user
</Location>

```

Apache の mod\_ldap 認証のコンフィグは少し扱いにくいです。(httpd 2.2.x と OpenLDAP: slapd 2.3.19)

1. Apache の httpd.conf に以下のモジュールをロードする必要があります

```

LoadModule ldap_module modules/mod_ldap.so
LoadModule authnz_ldap_module modules/mod_authnz_ldap.so

```

1. httpd.conf は以下のような感じになります:

```

<Location /trac/>
SetHandler mod_python
PythonInterpreter main_interpreter
PythonHandler trac.web.modpython_frontend
PythonOption TracEnv /home/trac/
PythonOption TracUriRoot /trac/
Order deny,allow
Deny from all
Allow from 192.168.11.0/24
AuthType Basic
AuthName "Trac"
AuthBasicProvider "ldap"
AuthLDAPURL "ldap://127.0.0.1/dc=example,dc=co,dc=ke?uid?sub?(objectClass=inetOrgPerson)"
authzldapauthoritative Off
require valid-user
</Location>

```

Microsoft Active Directory の LDAP インタフェースを使用する場合:

```

<Location /trac/>
SetHandler mod_python
PythonInterpreter main_interpreter
PythonHandler trac.web.modpython_frontend
PythonOption TracEnv /home/trac/
PythonOption TracUriRoot /trac/
Order deny,allow
Deny from all
Allow from 192.168.11.0/24
AuthType Basic
AuthName "Trac"

```

```
AuthBasicProvider "ldap"
AuthLDAPURL "ldap://adserver.company.com:3268/DC=company,DC=com?sAMAccountName?sub?(objectClass=user)"
AuthLDAPBindDN ldap-auth-user@company.com
AuthLDAPBindPassword "the_password"
authzldapauthoritative Off
# require valid-user
require ldap-group CN=Trac Users,CN=Users,DC=company,DC=com
</Location>
```

Note 1: このケースでは LDAP 検索で複数の OU をまとめて取得するために、AD のグローバルカタログサーバ (Global Catalog Server) に接続しています (ポート番号が通常 LDAP で使用される 389 ではなく 3268 であることに注意してください)。GCS は基本的に "平らな" ツリーであり、ユーザが、どの OU に属するか不明な場合でも検索することができます。

Note 2: Active Directory は、レコードにアクセスするために user/password (AuthLDAPBindDN と AuthLDAPBindPassword) による認証を必要とします。(訳注: GC ではなく、通常の LDAP であれば Active Directory の ACL に認証なしユーザからの読み取り許可を設定すれば不要です)

Note 3: "require ldap-group ..." ディレクティブはメンバのアクセスが許可されている AD のグループを指定します。

PythonPath を設定する

もし Trac のインストールが、通常の Python ライブラリのパスの中に無い場合、Apache が Trac の mod\_python ハンドラを見つけられるように PythonPath ディレクティブで指定しなければなりません:

```
<Location /projects/myproject>
...
PythonPath "sys.path + ['/path/to/trac']"
...
</Location>
```

PythonPath ディレクティブを使用するときは気をつけてください。そして、SetEnv PYTHONPATH は動かないので 使用しないで下さい。

## マルチプロジェクトのセットアップ

Trac の mod\_python ハンドラには Subversion の SvnParentPath とよく似た TracEnvParentDir というコンフィグレーションオプションがあります。

```
<Location /projects>
SetHandler mod_python
PythonInterpreter main_interpreter
PythonHandler trac.web.modpython_frontend
PythonOption TracEnvParentDir /var/trac
PythonOption TracUriRoot /projects
</Location>
```

/projects の URL をリクエストすると、[TracEnvironment](#) の親ディレクトリ TracEnvParentDir として設定したディレクトリ配下のサブディレクトリ一覧が表示されます。その一覧から何かプロジェクトを選択するとそれに該当する [TracEnvironment](#) を開くことができます。

あなたのプロジェクトのホームページとして、サブディレクトリのリストが必要ないならば、以下のようにすることができます

```
<LocationMatch "/.+/">
```

これは DocumentRoot フォルダの直下にカスタムホームページとして配置されていない場合には、すべてのロケーションで代わりに mod\_python を使用することを Apache に教えます。

すべてのプロジェクトに対して、<LocationMatch> ディレクティブを使用することによって同じ認証の仕組みを使用することができます。

```
<LocationMatch "/projects/[^/]+/login">
AuthType Basic
```

```
AuthName "Trac"
AuthUserFile /var/trac/.htpasswd
Require valid-user
</LocationMatch>
```

## 仮想ホストの設定

以下に示す例は Trac を仮想サーバーとしてセットアップするときに必要な設定です。(例えば、`http://trac.mycompany.com` といった URL でアクセスすることができます):

```
<VirtualHost * >
    DocumentRoot /var/www/myproject
    ServerName trac.mycompany.com
    <Location />
        SetHandler mod_python
        PythonInterpreter main_interpreter
        PythonHandler trac.web.modpython_frontend
        PythonOption TracEnv /var/trac/myproject
        PythonOption TracUriRoot /
    </Location>
    <Location /login>
        AuthType Basic
        AuthName "MyCompany Trac Server"
        AuthUserFile /var/trac/myproject/.htpasswd
        Require valid-user
    </Location>
</VirtualHost>
```

<Location> の代わりに <LocationMatch> を使用してログインで問題が発生する場合

複数のプロジェクトをサポートする仮想ホストの設定では、`"TracEnv" /var/trac/myproject` を `"TracEnvParentDir" /var/trac/` に置き換えて下さい。

Note: DocumentRoot should not point to your Trac project env. As Asmodai wrote on #trac: "suppose there's a webserver bug that allows disclosure of DocumentRoot they could then leech the entire Trac environment".

## トラブルシューティング

サーバエラーのページがでたときには、まずは Apache のエラーログを確認するか、`PythonDebug` オプションを有効にしてください:

```
<Location /projects/myproject>
...
PythonDebug on
</Location>
```

複数プロジェクトの場合は、全てのプロジェクトでサーバを再起動してみてください。

### Expat-related のセグメンテーションフォルト

この問題は Unix 上で Python 2.4 を使用するとき、ほぼ確実に発生します。Python 2.4 の使用する Expat (C で書かれた XML パーザライブラリ) と Apache の使用する Expat のバージョンが異なる場合に、セグメンテーションフォルトが発生します。Trac 0.11 は Genshi (間接的に Expat が使用される) を使用しているため、以前 Trac 0.10 で正常に動いていたとしても、現在のあなたの環境で問題が起こり得ます。

Graham Dumpleton が、この問題について詳しく書いています。問題の [説明と回避方法](#) を確認してください。

### フォームを送信するときの問題

もし、Trac で何かしらのフォームを送信したときに、トラブルに見舞われたら (送信後にスタートページにリダイレクトされてしまう、などがよくある問題です) `DocumentRoot` の中に `mod_python` をマッピングしたパスと同じフォルダやファイルが存在しないか確認してください。どういうわけか、`mod_python` は静的リソースと同じところにマッピングされると混乱してしまいます。

## 仮想ホストの設定においての問題

<Location /> ディレクティブが使用されている場合に DocumentRoot を設定すると 403 (Forbidden) エラーになることがあります。DocumentRoot ディレクティブを削除するか、アクセスが許されているディレクトリに設定されているかどうかを確認して下さい (対応する <Directory> ブロックにて)

<Location /> で SetHandler を使用すると、すべてを mod\_python でハンドルすることになりますが、いかなる CSS も image/icons もダウンロードできなくなります。この問題を回避するために、われわれは <Location /trac> で SetHandler None を使用しています。しかし、この方法がエレガントな解決方法だとは思っていません。

### .htaccess ファイルを使用する

ディレクトリを設定をほんのちょっと修正するには .htaccess ファイルを使用すればいいかもしれませんが、これは動作しません。Apache が Trac の URL に "/" (スラッシュ) を追加すると、正しい動作を妨げてしまいます。

それでは、mod\_rewrite を使用すればいいように見えますが、これも動作しません。とにかく、百害あって一理なしです。指示に従ってください。 :)

### Win32 での特記

Windows 上で mod\_python 3.2 より前のバージョンで Trac を動かしている場合、添付ファイルのアップロードが 動かない でしょう。この問題は 3.1.4 以降で解決されました。mod\_python をアップグレードしてこの問題を解決してください。

### OS X での特記

OS X で mod\_python を使用するとき、apachectl restart コマンドで Apache の再起動ができないでしょう。これは、mod\_python 3.2 でおそらく修正されるでしょう。しかし、[ここ](#) にあるパッチを適用すれば、3.2 以前のバージョンでもこの問題を回避できます。

### SELinux での特記

もし、Trac が Cannot get shared lock on db.lock というようなメッセージが出力したら、リポジトリにセキュリティコンテキストを設定する必要があるでしょう:

```
chcon -R -h -t httpd_sys_content_t PATH_TO_REPOSITORY
```

<http://subversion.tigris.org/faq.html#reposperms> も参考にして下さい

### FreeBSD での特記

mod\_python と sqlite パッケージのインストールバージョンに注意して下さい。Ports には両パッケージともいろいろなバージョンがありますが、初期の pysqlite と mod\_python は組み合わせることができません。前者は python のスレッド機能サポートが必要で、後者は python のスレッド機能なしのインストールが必要です。

apache2 を普通にコンパイルしてインストールした場合、apache はスレッドのサポートなしになります (これが FreeBSD 上であまりよく動かない原因)。--enable-threads を使用して ./configure を実行することで apache にスレッドのサポートありにすることができますが、これはお勧めできません。最良のオプションは /usr/local/apache2/bin/ennvars に下記の一行を追加することだと [http://modpython.org/pipermail/mod\\_python/2006-September/021983.html](http://modpython.org/pipermail/mod_python/2006-September/021983.html) 考えられます。

```
export LD_PRELOAD=/usr/lib/libc_r.so
```

### Subversion での特記

コマンドラインや [TracStandalone](#) で使用しているときは動くのに、mod\_python を使用しているときのみ、Unsupported version control system "svn" というエラーが出力される場合、[PythonPath](#) ディレクティブに Python bindings へのパスを追加するのを忘れている可能性があります。(Python の site-packages ディレクトリに Python binding へのリンクを追加するか、.pth ファイルを作っておくのがベターです。)

これに当てはまらない場合、使用している Subversion のライブラリが Apache が使用しているバージョンと適合性がないかもしれません。(たいてい apr ライブラリの不適合性が原因になります。) その場合、Apache の svn モジュール (mod\_dav\_svn) も使用できないでしょう。

また、ランタイムエラー (argument number 2: a 'apr\_pool\_t \*' is expected) を抑止するためにも、複数のサブインタプリタを使用できる最近のバージョンの mod\_python が必要になります。3.2.8 では たぶん 動きますが、[#3371](#) に記述されている通り、メインインタプリタを使用するように強制するワークアラウンドを使用の方がおそらく良いでしょう:

```
PythonInterpreter main_interpreter
```

これは、よく知られている `mod_python` と `Subversion` の Python バインディングの他の問題 ([#2611](#), [#3455](#)) について推奨しているワークアラウンドです。 [#3455](#) Graham Dumbleton のコメントに問題点が指摘されています。

### ページレイアウトの問題

Trac のページフォーマットが奇妙に見えるなら、ページレイアウトを管理するスタイルシートが Web サーバによって適切に扱われていない可能性が考えられます。 Apache のコンフィグに以下を追加してみてください:

```
Alias /myproject/css "/usr/share/trac/htdocs/css"
<Location /myproject/css>
    SetHandler None
</Location>
```

Note: 上記のコンフィグが効果を発揮するためには、プロジェクトの `root` 位置のコンフィグ後に追加しなければなりません。つまり `<Location /myproject />` 以降です。

### HTTPS の問題

Trac を完全に https で実行したいにも関わらず、プレーンな http にリダイレクトされる場合、 Apache のコンフィグに以下を追加してください:

```
<VirtualHost * >
    DocumentRoot /var/www/myproject
    ServerName trac.mycompany.com
    SetEnv HTTPS 1
    ....
</VirtualHost>
```

### Fedora 7 の問題

必ず 'python-sqlite2' をインストールしてください。 [TracModPython](#) では必須です (tracd では必須ではありません)。

### php5-mhash または その他の php5 モジュールのセグメンテーションフォルト

php5-mhash モジュールがインストールされている場合、 (debian etch について報告された) セグメンテーションフォルトに遭遇するでしょう。 php-mhash を削除して、問題が解決するかを確かめてみてください。 debian のバグレポート、 <http://bugs.debian.org/cgi-bin/bugreport.cgi?bug=411487> を参考にしてください。

システムライブラリの代わりに、サードパーティのライブラリでコンパイルされた php5 を使用する一部の人々にもトラブルが発生します。ここを確認してください <http://www.djangoproject.com/documentation/modpython/#if-you-get-a-segmentation-fault>

---

See also: [TracGuide](#), [TracInstall](#), [TracCgi](#), [TracFastCgi](#)